

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人愛生会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	令和5年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aiseien.or.jp/nagomi_group.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和5年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響により活動制限がまだまだ続いている状況の中、9月にクラスターが発生し職員が感染対応の実践をしたことで、却って理解を深め自信に繋げることができた。外出行事などまだ行えない状況ではあるが、施設内でのイベントが徐々に大きく行えるようになってきていることも一つの成果といえる。併設の小規模多機能との協力して大きなイベントを行ったり近隣の保育園や動物団体との交流も行っていったので、感染対策を取りつつ徐々にコロナ禍前の生活に戻していこうとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設(3階建ての2階3階をグループホームで使用している)は、商業施設も近く幹線道路沿いで訪問や買い物にも便利な立地。1階の系列小規模多機能型施設等と連携し、行事開催、避難訓練・備蓄、研修、昼食の準備など効率的に運営されてる。サービス面では、家庭的な雰囲気の中、利用者本位のサービスを提供し家族アンケートでも高い評価を得ている。医療面では、月2回の当施設専属主治医の往診と月4回の訪問看護との連携体制や、週1回の提携歯科医の往診体制も充実している。毎月発行しているご家族への情報誌「なごみだより」での施設運営やレクリエーションの情報提供と併せて、利用者一人ひとり個人向けの写真集(A4版1ページ)も毎回お届けしており、ご家族の安心感・信頼感を高めている。その結果、職員の努力がしっかりとご家族に伝わっている(アンケートで確認)。また、施設業務オンラインシステムが効果的に稼働されており、1台のiPadで利用者の生活管理情報が一元管理され業務の高度化・効率化に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作上げた理念を共有している。	職員全員で作上げた地域密着の意義を踏まえた「経営理念」「経営目的」「行動規範6か条」を2階3階事務所の目につくところに掲示し、GH全体会議や月1回のユニット会議時に確認し合い、自宅で過ごすのと同じような雰囲気与生活できるような日頃のサービスの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり地域交流が進んでいない。感染がやや落ち着いている時期に、地区清掃に参加した。	新型コロナウイルスの影響もあり、地域交流は計画通りには進んでいないが、感染状況を見極めながら地域行事には積極的に参加している。コロナ禍前には、こどもの日やハロウィンなどのイベント、人形劇など、近隣2カ所の保育園との交流もさかんであったが、直近では町会清掃等への参加を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターフォローアップ講座を、地域包括の方と開き情報を発信してきた。また、施設の外に掲示板を作り、活動内容などを掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状では中々サービスの実践を見ていただくことが難しいため、主に感染対策や発生時の対応などの意見を中心に反映させている。	運営推進会議は2カ月毎に、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、家族、職員で開催しているが、報告書閲覧形式での運用となっている。また、現状では中々サービスの実践を見てもらうことが難しく、テーマは主に感染対策や発生時の対応などの情報交換を中心にすすめられ、業務に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に取り組むことなどは、行っていないが情報の確認などで、連絡をしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員から意見・情報を頂く等、良好な関係を築いている。また、行政機関(八千代市長寿支援課)との協力関係構築にも積極的に努めている。	市町村との連携強化については、運営推進会議の報告書を八千代市長寿支援課に持参して繋がりを深めるなどさらなる積極的な取り組みも期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関の施錠は行っていないが、夜間は防犯上行っている。また、身体拘束については、勉強会などで互いのケアについて話し合っている。	身体拘束についての指針に基づき、身体拘束廃止委員会を年2回開催する他、年に3回勉強会を実施し全職員積極的に取り組んでいる。また、名前の呼び方や現場でのお声かけの仕方など日々の接し方について、利用者の心にも与える影響を職員間で話し合い都度改善努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待委員会を作り、お互いに虐待が見過ごされないように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解などは、話す機会などは無く、一部の職員が解っているので、今後は、話し合いの機会を作るようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解除については、特に長期入院をするようなことになったときには、家族と病院の状況などを確認しながら行っている。また、契約時に一か月以上の入院になる場合などの説明などを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前は家族会で意見徴収できていたが、現在は面会来訪時などで個別に話を聞いている。	以前は家族会(年2回開催)で意見聴取出来ていたが、コロナ禍では、利用者については日常適宜、家族からは訪問時や電話連絡時、意見要望を聞き運営に反映させている。また、館内での初詣イベントで絵馬に書かれた要望(お寿司食べたいなどをお誕生会などで実践し、その様子を写真に収め毎月発行の「なごみだより」でご家族へ報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月GH会議などを行い、職員の意見などを聴取している。	施設長の積極的な働きかけと話しやすい雰囲気作りから、毎月のGH会議で出た意見要望を、運営に反映している。個人面談も適宜行っており、職員の意見も個別に対応している。また、リーダー会議で職員からの意見・提案等を情報共有し、職員一体となり施設運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価・面談を通じ役割などを検討する機会を設け、モチベーション維持に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コミュニケーション能力向上に特に力を入れ、研修受講のスケジュールを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で、GH部会を2か月1度行い、互いに情報の交換などを行っている(※現在はリモートで実施)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子などを常に確認しながら、傾聴を行い要望に応えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の様子を伺うために、事前調査を行いご自宅で困っていることなどを伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の小規模多機能など、在宅を継続する手段を知らずにグループホーム入居を希望された方に、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方にも食事準備や洗濯物を畳んでもらい、自宅で過ごしていた時と変わらない生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、毎月お便りをだしながら、日々の生活などを伝え情報の共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係継続は行えているが、馴染みの人との交流は難しい状況(感染状況により)。	コロナ禍にあり外出規制や行動制限があるため馴染みの人との交流については限りがあるが、家族との良好な関係は保たれている。また、利用者の希望するレクリエーションも出来るだけ企画し、豊富なイベント活動も実施出来ている。入居者に寄り添った対応をしてくれるとのアンケート結果からも、小回りのきいた対応が評価されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が、関わりを持てるようにイベント等を多く作り、関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のフォローなどは、現状行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方については、ご家族や職員同士のミーティングなどにより、一人ひとりの希望などを取っている。	利用者から食べたいもの・行きたい所などを聞き取り、ユニット会議を通して職員間で検討している。畑仕事が好きなお利用者には近くの公園の自然に触れさせたり、絵馬に書かれた「肉がもっと食べたい」という願いには誕生会メニューをすき焼きにしたりしている。意思表示が難しい利用者には、表情や態度でその思いを汲みとろうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、事前調査に行き、個人の情報を確認して、職員へ周知していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報の共有を行いながら、日々の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となって、ご家族や他の職員から情報を共有して、介護計画に反映している。	入居時の事前調査に基づき介護計画から6か月毎にケアマネが、各利用者に関わっている職員の気づきや意見を活かした見直しを行っている。利用者家族には、ケアマネが面談や電話連絡にて丁寧に修正対応等について報告し相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌以外に、個人記録を取って介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援など、家族の強力が難しい方で感染状況のため一緒に買い物にいけない方でも、代理購入し、ネットカタログを見ながら選ぶこともしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が遅れており今後の大きな課題となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診を行う前に、ご家族へ電話連絡を行ってから受診をする。また、受診後もご家族の立ち合いが無い場合は、連絡を行う。	施設契約医の月2回の往診に加え、別途馴染みのかかりつけ医を受診するときは家族の付き添をお願いしている。訪問看護師は月4回の往診のうち2回は契約医の往診時に合わせて来所し医師との医療連携を図っている。歯科は個別の契約で月一回の往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携は、どの職員でも取れる様に指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りは、日常的には行っていないが、退院時や長期入院などの時は、入院先への連絡は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていないので、先の予測を踏まえ、必要時に法人内の特養へ移動できるよう、特養相談員との情報共有を行っている。	入所時に利用者家族と重度化や終末期の対応についてよく説明している。先の予測を踏まえ、体力の低下が著しい場合は利用者家族と相談の上早めに同法人特養と連携している。更に重度の場合は他の医療機関を利用することになる。現在、当該施設での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練などを行っていないが、各利用者の情報を共有しながら、体調の変化などの時はどのようにするか訪問看護との連携を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法検討や訓練を通し身に付けているが、地域との協力体制構築は滞っている。	クラスター発生の経験を踏まえ、感染対策BCPを作成した。緊急避難の実地訓練では停電でエレベーターが使えない場合を想定し、職員を担架に乗せて階段を降りてみた。緊急を要する場合は、階段にマットを引いてシューターのようにした方が良かった。5日間の水・食料等は備蓄している。	運営推進会議等を活用して、避難訓練の報告や意見交換を通して外部との協力体制を築くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気ない時に、言葉かけを注意することがあるので、職員が自覚できるようにしていきたい。	月次ユニット会議での確認に加え、日頃の現場では施設長・主任が巡回時に職員を個別指導している。利用者の呼び方もそれぞれの個性に合わせており、既婚の女性利用者で旧姓の名で呼ぶ方が良い場合もある。排泄を促すときも「ちょっと歩きましょう」とお声がけして利用者の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりに、行きたい所や行いたい事などの希望を取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイミングに応じ職員の都合でお待たせすることはあるものの、基本的な生活のペースは尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどには、注意するようにしている。また、居室なども清潔に保てるように、リネン類や居室清掃などは、割り振りをおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策のため、お客様が調理参加するのは難しくなっているが、簡単な作業をお願いしたり、食器を拭くことを一緒に行ったりしている。	利用者の「食」を楽しむ機会として、毎月合同誕生会を開催している。職員が板前さんの白衣を着てカウンター越しに寿司を並べて雰囲気を出したり、絵馬に書かれた「肉をもっと食べたい」に応え、すき焼きを利用者が調理分担して食べる等、食事を楽しんでもらう工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの一日の記録を作成して、食事量や水分量などを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯と口腔内の様子を確認している。訪問歯科の先生にも、毎月口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調が悪い時以外は、トイレにて排泄介助を促している。一人ひとりトイレの確認表などを使って把握している。	各階ユニット毎にiPadを設置、排泄・介護状況も一元管理されている。このため、利用者各人の傾向も把握でき適切な介護も可能となっている。骨折した利用者はリハビリを経て自分で排泄できるようになった。歩行が困難な利用者には、夜間居室での簡易トイレも利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に最終排便などを確認して、オリゴ糖なども活用して排便の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回入れるように、入浴リストを作り入って頂いているが、職員の都合などにより入って頂いている事有。	職員は利用者が入浴をより楽しめるよう、カセットで音楽を流したり入浴剤を選んでもらったりしている。設備面では浴槽のふちが上下して入浴しやすく、椅子に座ったまま入浴できる装置も完備している。中には、入浴後には簡単なおつまみとノンアルコールビールを楽しんでいる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり、安眠できるように環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員同士お互いに声を掛けあい、誤薬が無いように努めている。また、体調の様子などを担当医と薬剤師と連携を取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを、把握して一日を満足して頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出行事は法事などやむを得ない場合を除き中止している。感染状況に応じて、近場の散歩など徐々に外に出られるように前向きに考えている。	職員が施設の裏庭に植えた花を、敷地を一周して見に行くことから始めて、利用者の状態に合わせ車いすで近くの公園に行ったり不定期だが車で外気に触れたりしている。今後は、以前行っていた近くのイオンでの買い物・食事、京成バラ園や桜見などの外出も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をお預かりしているご利用者については、買い物時にお金を渡して、物を購入できるようにしている(※体制を整えているが、現状では対象になる方がいない)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された方には、電話を部屋に置いて自由に掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁などには、活動写真や季節ごとの壁面工作などを飾り、目でも楽しんでいただけるようにしている。	共用のリビングは空調完備で大型TV・長椅子もあり各利用者が思い思いに快適に過ごせる雰囲気になっており、一部置のスペースもある。念のため、定期的に部屋の換気も行っている。親しみが持てるよう壁面にはレクリエーションで作成した利用者の作品やイベント風景の写真も展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングシートなどを、共用スペースに置き、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお部屋は、家で使っていた衣類や家具などを持って来てもらい過ごして頂いている。	馴染みのある居室とするため使っていた筆筒、ギター、仏壇などを持ち込んでいる利用者もいる。全室個人用のTV・洗面台・寝起きの負担がかからない介護用ベットも完備している。それぞれの居室の前には、見分け易いよう本人の写真が貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立心を持って、生活が送れるように職員一同心掛けています。		